

< 実践事例紹介 >

平成29年度については、千葉県習志野市、神奈川県川崎市、徳島県、宮崎県の4地域で発達障害地域理解啓発事業を実施することができました。ここでは、宮崎県における実践をご紹介します。

宮崎県では、宮崎県教育委員会が主催する「特別支援教育フォーラム」の第I部として実施しました。参加者は約400名で、その内、約半数が保護者の方々でした。

特別支援教育フォーラム I

日時：平成29年11月16日（木）9：00～15：55

会場：新富町文化会館 ルピナスみらい 児湯郡新富町大字上富田6367番地1

* 宮崎県教育委員会・国立特別支援教育総合研究所・宮崎県立児湯るぴなす支援学校が共同で開催。
* 西都児湯エリアサポート推進協議会^{注1}による全面的な協力。

注1) 宮崎県が独自に構築した特別支援教育地域支援体制「エリアサポート体制」における7つのエリアのうちの1つで、西都市、高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町で構成される西都児湯エリアにおける特別支援教育の充実のための取組を計画・推進する組織。

午前の部（9：40～13：30）発達障がい理解啓発ワークショップ

午前中は国立特別支援教育総合研究所の発達障害教育推進センター（以下「当センター」と言います。）が企画した、理解啓発のためのワークショップを行いました。ワークショップでは、研究紹介、心理的疑似体験、教材教具等展示、研修講義 DVD を使ったミニ講義、の4つのコーナーを設けました。各コーナーでは、連携機関のスタッフの皆さんにご協力いただきながら参加者への対応を行いました。

●研究紹介コーナー

研究所でこれまでにやってきた研究を、ポスターを使って紹介しています。今回は以下の研究について紹介しました。

- H28-29年 高等学校における通級による指導の在り方に関する研究
- H26-27年 発達障害のある子どもの指導の場・支援の実態と今後の指導の在り方に関する研究
- H24-25年 高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究
- H22-23年 発達障害と情緒障害の関連と教育的支援に関する研究



●心理的疑似体験コーナー

発達障害がある方の学習面や生活面での困難さについて、疑似体験を通して実感していただいています。今回は以下の内容を体験していただきました。

- ① 手先の不器用さによる生活上の困難さ
- ② 桁がずれることによる計算(筆算)の困難さ
- ③ 目で見たことを記憶することの困難さ
- ④ 自閉症児・者の聞取りの困難さ



●教材教具等展示コーナー

発達障害がある子どもへの学習面、生活面、対人関係における支援に活用できる教材教具、書籍などを紹介しています。以下は今回紹介した教材教具等の一部です。

- ① 書くこと：鉛筆持ち方補助具、回し易く工夫したコンパス
- ② 読むこと：音読用枠、音読用定規
- ③ 聞くこと：ノイズキャンセラー
- ④ 見ること：『見る力』を育てるプリント教材
- ⑤ 研究報告書 等



●ミニ講義コーナー

当センターのWebサイトで配信している1本15分程度の講義DVDを視聴し、研究員が解説しています。今回は以下の内容を行いました。

- ① 「注意を集中し続けることが難しい子」
- ② 「音読が苦手な子」
- ③ 「ちょっと気になるが出発点」



午後の部（13：30～15：55）講義&シンポジウム

午後は当センターの笹森センター長による講義「思春期の発達障害のある子どもにどう向き合うか」、シンポジウム「発達障がい者の社会参加について～あなたがあなたの仕事をするために～」を行いました。

シンポジウムでは、保護者、企業、福祉、労働の立場から5名の方々に話題を提供していただき、就労を中心に発達障害がある方の社会参加についてディスカッションを行いました。本人が自分の特性を正しく肯定的に理解すること、企業としては相談できる窓口を設けるなど支える体制を整えること、関係機関としては情報の引継ぎなど支援が途切れない関わりをすることなどが大切といった意見が出されました。

